



錦帯橋



関門海峡大橋



広島平和記念資料館

原爆ドーム



厳島神社



47年松江市水害

松江大橋川



米子市公会堂



出雲大社



三徳山三佛寺（投入堂）



倉敷美観地区



吉備津神社

中国支部

中国地方は瀬戸内海、関門海峡、日本海に面した5県（広島、岡山、山口、島根、鳥取）により構成されている。中国山地を隔てて、山陽、山陰地方とそれぞれ独自の文化（吉備文化、出雲文化等々）がある中国地方。人口、経済状況、立地特性、気候風土もそれぞれ異なり、多様な地域特性を持つ。中国支部は各県単位で地域会を構成し、それぞれ地域会単位で独自の活動を行っている。

39年間の変化

2011年から39年後の2050年はどのようなになっているのだろうか。2011年をさかのぼって39年前1972年の中国地方の様子を振り返って、その変化の振幅を確認しながら2050年を照射できないか？過去から現在への変化。現在から未来への変化。その変化は残念ながら一つのベクトル上にないことは明らかである。

1972年

世界の人口は37億6,550万人。アメリカではスペースシャトル計画の開発が発令された。日本では大阪万博が開催されて2年後である。人口は1億760万人。沖縄が返還され、沖縄県がスタートした。日中国交が正常化され、田中角栄首相が日本列島改造論を唱え、国家的な大事業である「むつ小川原開発」が了承された。中国地方では5県あわせた人口が714万人。山陽新幹線新大阪駅 - 岡山駅間が開業し、4時間10分で東京と結ばれることになった。山口県では1973年関門海峡大橋が完成し、その3年後の1975年岡山駅から博多駅までが開通し山陽新幹線は完成する。島根県の松江市では豪雨による水害が発生。浸水家屋2万戸市街地は1週間に及び冠水した。その後斐伊川流域の治水対策が始まることになる。鳥取では駅の高架化が決定した。

2011年

世界の人口は70億人を突破。世界各地で異常気象が発生。前の年中国のGDPは日本を抜き世界第2位になった。日本の人口は1億2,800万人。すでに人口減少社会に突入している。そんな中3月11日東日本大震災が発生。津波による甚大な被害。福島原発の事故。2011年という年は日本にとって、パラダイムシフトは避けて通れないことを突き付けた年となった。

中国地方では5県の総人口770万人

広島では「今 都市広島の意味を考える」シンポジウムが開催される。岡山では閑谷学校を中心とする池田藩の史跡が、ユネスコの世界文化遺産に登録されるよう取り組みがなされている。松江では治水対策の最終段階大橋川の改修工事が再開された。松江のまちはこの改修で防災と、まちづくりのを今後どのようにしていくのか大きな課題に直面している。出雲大社は60年ぶりの大遷宮。工事も佳境である。鳥取県の米子市では耐震強度不足で解体とされていた米子市公会堂（村野藤吾設計）が、JIA・建築学会を含む市民運動により一転。保存改修されることになった。鳥取市では鳥取大震災（1943年）、鳥取大火災（1952年）を耐え抜いた近代建築「五臓園ビル」の保存、活用のための改修工事が完了した。山口では、県内萩市・山口市・防府市の3市をつなぐ「萩往還道」の整備が進められており、最近国の重要伝統的建築物群に関連して、四つ目の地区が指定された。

自分たちに出来ることは何か？

今、自分たちの足元を見つめてこの場所でいかに「誇りを持って暮らすか」、が問われる。私たち地域の建築家は地域の人々と深くかわりを持って、この問いに答えていかなければならない。「人間中心主義の旗」を掲げて、今まで以上に地域に根ざした活動を、市民とともに積極的に行っていくことが求められる。

変わらなければならないこと、保存、継承しなければならないこと。私たち建築家はしっかり見極め、行動しなければならない。

次の世代のために。